

2009

JAN. 1 vol.25

東京成徳広報



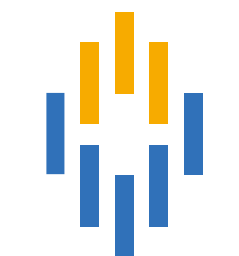
本年4月経営学部が開設される十条台キャンパス



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	巻頭言「学園の今後の展開について」 理事長 木内 秀俊
P 4	新学部・新学科関連 学部長 岡田 康司 学科長 海保 博之
P 5	年頭所感 副学長 國分 康孝 科長・学部長 市村 操一 学部長 深谷 昌志 校長 大澤 健 科長 中田 カヨ子 科長 樋口 信夫
P 7	OPINION 学部長 日山 紀彦 校長 木内 秀樹
P 8	年男・年女のひとこと「丑年生まれ」 学科長 永井 聖二 准教授 野島 博邦 教諭 野川 史 教諭 富岡 達夫 教諭 遠藤 美緒 教諭 緑川 梓
P 9	時の話題『蘆花の新書簡を発見』 教授 鶴巻 孝雄
P 10	ひと『活躍する卒業生』 愛和幼稚園長 榎本 京子 都立王子第二支援学校 教諭 斉藤 あずさ
P 11	就職状況 八千代キャンパス就職課 十条台キャンパス学生生活課
P 12	TOPICS 大学院 大学 短期大学 中高一貫部 高等部 深谷高等学校 幼稚園 第二幼稚園
P 22	クラブ活動の成果
P 23	学園教員の新刊紹介
P 24	学園各校のお問い合わせ先



TOKYO SEITOKU

学園のシンボルマーク
「理想」と「実」を表す。
ブルーの五本の柱は、五つの教育目標を
「活」と「愛」を表した。
イエローの三本の柱は、学生・生徒と
教職員、同窓生を象徴しています。
そして、八つの柱が一体となり、
東京成徳と学園に集う人々の
ヒューマニティーを
作り上げる姿を表現しています。



学園の今後の展開について

理事長 木内 秀俊

このたびアメリカ合衆国の新しい大統領に選出されたオバマ氏は、チェインジ（変革）をキーワードとして選挙戦を戦いました。チェインジ自体は自分達が主体的に社会や世の中を変えて行くことを意味しますが、それが共感を持って迎えられたのは変えるべき社会や世の中の現実があるからだと思えます。つまり世界的に経済を中心とした現在の社会システムがかなりの制度疲労を起こしており、現状のまま今後も平穏・安定して続いていくことは不可能である背景・環境がある現実を示すものと考えられます。昨年九月に起きたアメリカの名門証券会社・投資銀行であるリーマンブラザーズの破綻などをはじめとした金融危機は、システムの制度疲労を明確に示した事件ではないかと思えます。この金融危機は、金融の分野に止まらず、实体经济の分野にも

影響しつつあり、アメリカを象徴する自動車産業も苦境に陥っており、一〇〇年に一度の不況となる可能性もなしとはしません。

そして目をわが国に転ずれば、平成バブルの崩壊により破綻した金融システムは長く困難な不良債権の処理の過程をへて現在の状況に再編成されています。わが国においても歴史を有し、実力もあるとみられていた大きな証券会社・銀行が破綻していきました。そして残った企業も以前は考えられなようなグループを超えた合併を実現したり、外国資本に買収されていったことは、我々が目の前に見てきたことです。このような試練を経たわが国の金融機関は、今回の金融危機に際し比較的健全性を保っていると言われていますが、時間が経つにつれじわじわと負の影響が出つつあるような気がいたします。またすでに輸出関連

産業などが、業績見通しを大幅に下方修正しており、雇用面でもここ数年の状況と異なり、厳しい状況に陥りつつあります。そのような中で少子高齢化に伴う年金・介護を始めとする様々な課題解決が要請されておりますが抜本的な解決がもたらされているわけではありません。このようなグローバル化の動きは、教育・研究の世界も無縁ではありません。グローバル化は、一面標準化の側面を持っており、高等教育においてもわが国においても従来の学部・学科を卒業するという枠組みの観点から、一定の質を有する学位（例えば学士）を取得するという学びの到達度の観点に移りつつある状況と思われれます。高等教育の標準化・評価ということに私自身は全面的には賛成ではありませんが、世界的に人々の動きが活発化している現状を反映してやむをえない面もあると感じており、我々の学園でも短期大学が平成十九年度、大学は今年度第三者評価機関から評価を受けております。

ところで学園は、現在平成二十一年度を起点とする五年間の中期事業計画を策定中であり、この中期計画策定の趣旨も、このよう

な現代の大きな社会的な変化に対応するものであります。以前より学園はアクションプランとして三年ごとの事業計画を各学校単位として策定してまいりました。これはある意味で各学校等の希望プランともいえるべき性格であり、学園全体としての施設・設備投資の優先順位の調整には多少有効であったと思われれます。反面、中長期的な学園の方向性を学園の構成員が確認し、かつ社会に発信するという大きな点では不足していたものと考えております。

経済を始め様々な点でグローバル化する世界は、社会に大きな変化をもたらしつつあります。また少子高齢化の急速な進展もわが国にとって大きな変化をもたらす要因です。このようにこれから大きく社会が変化していく中でこれまで学園が培ってきた善きものを保持しつつも、新しい環境の中で自分の存在意義を再確認していく作業が今後継続的に必要とされることを痛感しております。変化の激しい社会状況の中で多くの困難があると予想はされますが、学園の力を結集して社会のニーズに応えていく所存です。

経営学部開設に向けて

大学経営学部長 岡田 康司



昨年十月三十一日、文部科学大臣より東京成徳大学経営学部経営学科の設置が認可されました。現在、十条台キャンパスでは、経営学部開設の準備が着々と進んでいます。そして、四月には、新入生を迎えていよいよ経営学部がスタートします。

さて、今般の世界金融危機に象徴されるように、現代の市場では長期的視点とともに「協同」が求められています。独善的・近視眼的な精神を排除し、市場や社会と共生する経営の時代を迎えています。「成徳」の精神が重要性を増しており、ここに東京成徳大学に新たな経営学部を開設する意義があります。

経営学部がめざすのは、記憶力重視ではなく、「有徳有為」な、社会に真に役立つ「社会的偏差値」を持った人材の養成です。そこで経営学部では、学問に現実の息吹を与える「実学」を心がけ、短大ビジネス心理科から伝承する「心

理学」を重視します。

英語やIT・ビジネス実務といった基礎の上に、会計・心理・マーケティング・経済学などの経営学の基本を築き、経営環境、産業構造、日本型経営などの経営学を経営者の講話やインターンシップによる経営実態に触れる機会などによって「実学」として学びます。

また、基礎的な科目やクラスやゼミを必修としてきめ細かい指導を行うとともに、全員にパソコンを貸与するなど学生の自主性を引き出す教育・指導を行います。学生は、①「ここで学ぶ」の知的興奮を感じ、②卒業後は「ここで学んだ」という「良き思い出と誇り」を持つことでしょう。

経営学部で喜怒哀楽を共有しながら経営を学んだ学生なら、就職戦線を勝ち抜くのはそう困難とは思えません。どんな分野からも歓迎されるはずですが、もちろんそのため、ビジネス経験豊富で情報と人脈に事欠かない教員が、重要な使命として学生をリードすることはいうまでもありません。経営学部は、教職員あげて学生に社会への「飛躍の場」を提供しようという、熱い「創造集団」です。

(本年四月一日経営学部長就任予定)

健康・スポーツ心理 学科新設

大学応用心理学部 健康・スポーツ心理学科長

海保 博之



四月新学期が心から待ち遠しい。あの高校生諸君と対面できるとわくわく、

「あの高校生諸君」とは、これまで数十人。事前面談や入試面接で対面してきた諸君である。

明らかに、これまでの四〇余年に及ぶ教員歴のある自分でも、出会ったことのないタイプが多い。たとえば、

- ・ トイレで「こんにちは」と威勢よく挨拶をしてくれる
 - ・ 面談で緊張しているはずだが、絶えずニコニコ笑顔
 - ・ 「ちよつとまってください」といつて筆記具を取り出す
 - ・ 「仲間と一緒に面談する」といつて一緒に面談する
 - ・ 姿勢がよく、声も大きく、礼儀正しい
- 第一期生として彼らが入学して

くる。さてどんな学科がつけられるのか。

こちらにもいくつかの思い、計画、期待がある。

「心身一如」「ポジティブ・マインド」「天空海闊」「傾聴」

こんなスローガンもつくってみ

た。こちらの強く熱い思いを伝えながらも、「あの高校生諸君」と一緒になって健康・スポーツ心理学科の新しい伝統をつくっていききたい。

人文学部に観光文化 学科の設置構想中

平成二十年十月一日、観光庁が創設され、「観光立国日本」の舵取りをする国の役所ができました。本学園ではすでに短大言語文化コミュニケーション科において観光人材の育成を目的とする教育を行い、ホテル・航空会社・旅行会社などの観光関連業界へ卒業生を送り出し、成果を挙げてきました。今後、さらに観光立国を支える人材の養成が求められることから、本学園でも、そのニーズに応えるべく、平成二十二年四月の開設計画で、人文学部に観光文化学科の設置を構想中です。

ふれあいのあるキャンパスづくり

副学長 國分 康孝



私にとつてヒントになる会話が
あった。
ある私立
大学の理事
長に宴会の
帰りにバス

の中で私がこう声をかけた。
「酒を飲んで親しくなっても、お互いに客を奪い合うライバルなですなえ」「いや、いや、そんなことはない。神田に古本屋が沢山並んでいるが、お互いに共存しているじゃないですか。ぼくら私大もあれと同じですよ」との反応が返ってきた。

そこで私は考えた。見た目には同じ古本屋でも何かちがうところがあるのではないか。私どもの古本屋は「ふれあい」（共生とコミュニケーション）がワンセットになったことばが特色である。これをトレードマークにすれば神田で居場所が維持できる！と。

ではふれあいのあるキャンパスとはどういうイメージか。私のこんな体験がその図である。「先生の愛読書は論語だそうですが、大学や中庸はどうですか」「いや、まだ読んでいなんだよ」「ぼくの読んだ文庫本を差し上げます。論語だけ



じゃだめですよ」馴れ馴れしくない敬意のある親密性がそこには感じられた。こんなこともあった。渡り廊下に「じべたりあん」風に座っていた学生が、通りすがりの私に「先生、食べますか」と弁当箱のふたを取って差し向けた。西洋梨が六片ほどきちんと並んでいた。彼のくれた爪楊枝で私は一口に口にした。「ありがとう。ところで君、山形か？」「ハイおふくろが来たんです」それだけの会話で別れた。これも「ふれあいの図」である。

こういう風景のある大学は心を癒し、生への意欲（人生肯定の姿勢）を育てる。その結果、勉強にも励むようになる。それはいくつかの教育委員会（例さいたま市教育委員会）が構成的グループエンカウンター（ふれあいを育てる集団体験）を導入したところ、いじめ・不登校が減少し、学力も向上したと実証研究をしていることから推測できる。

ところでふれあいのあるキャンパスづくりに必要なのは、教職員の対仲間・対学生への自己開示的な言動である。すなわち木内学長の表現を借用すると「素直な心」「おらかな心」の表現を日常化することである。



麻生さんのまねではありませんが・・・

大学院研究科長兼応用心理学部長 市村 操一



「カラマーゾフの兄弟」が亀山郁夫の新訳で読者を増やしているようだ。有名だが実際には

読まれることの少なかったこの長編小説の新訳を企画した光文社の編集長は、最初は定年退職で時間のできる団塊の世代の読者を当て込んでいたとのことだ。しかし、実際の読者の半分は三十歳までの若者だそうである。

我が家の「カラマーゾフ」は九五五年版、米川正夫訳。高校二年生の受験勉強の最中を買ったものだ。読み通したのは四五歳近くになっていた。最近の人氣に刺激されて再読すべきかどうか迷っていた。

先月、「まんがで読破」カラマーゾフの兄弟」という漫画を勝田台の京成電車のホームのキオスクで見つけて、一晩で読んでしまった。原作の記憶がよみがえって物語の流れを再確認することができた。

実は、その他にも隠れて読んでいる漫画がある。聖書は旧約も新約も読み通してはいない。心理学を勉強する上で聖書の知識が必要なのがあるのだが、指導者なしで直接聖書を読むのはかなりの難業である。そこで岩波ジュ



ニア新書の「聖書物語」などでにわか勉強をしたりした。最近では漫画による聖書物語が何種類か出版されるようになった。旧約聖書の漫画を繰り返し読んでいる。出エジプト記などを活字で読んでみようと思っている。

私が途中で何度も挫折した文学作品の一つはゲーテのファウストである。詳しく言えばファウスト第二部。途中で話の筋道が分からなくなつてしまふ。かなり悔しい思いをしなが、何度途中で投げ出したか分からない。

最近のことだが、インターネットを検索していたら、ファウスト第二部の筋書きを詳しく解説しているサイトを発見した。その道案内を頼りに読み始めた。夜道をライトで照らしもらったように、たちまちにして通読してしまつた。

まじめな読書家から見たら邪道な読書法かもしれないが、読解力・根気・時間に恵まれない者にも世界の名作に近づく権利はあると考えて、さまざまに読書術を学生にも伝えたいと思う。キルケゴールの「死に至る病」も漫画になつているので、今年は学生と一緒に読む。



に読むつもりである。

子どもの成長を「支える」ことに
第一に



子ども学部部長 深谷 昌志
今春、子ども

学部も六年目の新入生を迎えることになりました。手探りで始めた子ども学部作りも少しずつ軌道に乗ってきた感じがします。

東京成徳大学の子ども学部が発足してから、いくつもの大学で子ども学部が誕生しました。しかし、その多くは、幼稚園免許に保育士の資格、それに、小学校教員免許を加えた「保育版・教育学部」という感じの学部です。東京成徳大学の子ども学部は「子育て支援と子どものサポート」をモットーにスタートしました。子どもを「教える」対象としてとらえるのではなく、子どもの成長を「支える」ことが大事だと考えたからです。

子どもを取り巻く昨今の状況を視野に入れると、子どもを「支える」ことがますます重要になってきました。それだけに、今年も、微力ながら、子どもの視点に立って学生を指導すると同時に社会的な発信を心がけていきたいと思っています。

新しき朝 いま明けて
(校歌の第一節)



「元日や晴れて雀のものがたり」
芭蕉 一門・嵐

雪の句。元日は雀の囀りも何やら楽しそうです。今年ほどんな年になるか

気になります。新・明・喜・楽などの活字が躍る年であってほしいものです。

時は一刻も休まず流れ続けるので「いつの間にか」と馬鹿を重ねてきましたが、四季の区切りがあるこの国で迎える新年の朝はまさに気分一新、良いものです。

いろいろあった昨年ですが、私は照明分野での「発光ダイオード」の席卷に眼を見張りました。皆さんも信号機や駅の表示、イルミネーションなどが一際鮮明になったのにお気づきでしょうか。小型で安価、長寿命、そして何より消費電力が少なく、世界に誇れる日本の科学技術の成果であります。世界中の暗を明に変えて欲しいものです。

高校生プログラム「石川君の活躍も世間を明るくしてくれました。今年もまた皆さんにとって明るく楽しい年であり、学園にも喜びの多い年でありますように・・・。

新年を迎えるにあたって



短期大学幼児教育科長 中田 力三子
幼児教育科が

開設され今年で四十四年目を迎え、卒業生も一万人を超えました。これまで

は、受験生も順調に増えてきましたがここ数年は、少子化の影響や近隣に保育者養成校が増えてきたこともあり、年々受験生の数が減少しています。この厳しさに打ち勝つためには、科独特の事柄をもっと大切にいくことが必要です。

特色としては、色々な授業の成果として行ってきた「保育研究発表会」「音楽発表会」研究誌として「桐の花」があり、新しい保育の動き・知識等を盛り込んだ「保育研修会」があります。これらは二十数年続いています。今年からは三年前から行ってきた近隣の幼稚園や保育所と連携をとり、授業の中で保育の現場に行き、園の生活を観察、理解しながら自分達の課題を追求する「学外授業」に力を入れたと思います。

将来保育者を目指している学生には保育の現場で、実習とは違う立場で子どもや保育者の動きを十分観察、理解し、保育者になった時に少しでも役立つようにと考えています。

科の改革に全員で取り組む



短期大学言語文化コミュニケーション科長
樋口 信夫

激変する社会情勢をふまえて短大への入学志願者の価値観が大きく変わってきています。志願者が求めるニーズを把握し、それに

応える教育内容を準備して共に学び合い、社会人としての素養を身につけた学生を社会に送り出すことが当科の責務であり、結果として学生の満足感につながるのだと思います。

言語は、人が生きる上での基本。コミュニケーション能力は人々が社会生活を円滑に営むうえでの必要条件です。豊かなコミュニケーション能力、ホスピタリティ精神を身につけていただくことが目標であり、当科の「観光」「英語」「日本文化」の三本の柱をより魅力的にして強固にしていくことが肝要と考えております。

「この学科に入学してきて本当に良かった」と卒業生全員に言ってもらえるよう教員一同一丸となって科の改革に取り組んでまいり所存でございます。ご指導をお願いします。

学士力養成のための人文学部の教育力の向上にむけて

人文学部長 日山紀彦



大学生の学力低下がなげかれて久しい。大学生の学力不足は二つの局面において考えられる問題である。

一つは入口（入学時）の学力不足であり、もう一つは出口（卒業時）の学力不足である。第一の入学時の学生の学力不足の現状は、周知のように、多くの大学で苦慮している問題で、新入生の一般常識不足ないしは教養力の水準と知的水準力で、果たして大学四年間の教育に耐えられるかという問題である。こうした現状で、学部の専門教育にいきなり入っていきけるかという問題は本学部でも真剣に考えなければならぬ段階に至っている。

そのため、われわれとしても手をこまねいているわけではなく、まず共通領域での総合的で入門的な教養教育、つまりわかりやすく・おもしろく・ためになる基礎教育を行って一般的な教養力や社会的常識力および知識力の涵養に努力している。さらに専門学科においても、それぞれの専門教育に入るための準備段階としていわゆる「リメディアル教育」(補習・補充・補充のための基礎教育)を工夫をこらして準備し実施しはじめた。一層の改善・改良を施して専門教育の充実へ

とつなげていく所存である。

第二の卒業時(出口)の学力不足問題に関してであるが、これは大学卒業時に学生が「私は大学を出ました」といえるにふさわしい知的能力(教養力・専門基礎力)および社会人基礎力を修得しているか、という問題である。学部の卒業生(学士)に適しい力(学士力)を修得して社会に出ていくことは学生の義務・責任であると同時に、大学としてそれは社会に対する義務であり責任である。それが昨今大いに問われているということである。こうした時代を背景に、文部科学省においても全国の大学に対して学部の教育のあり方(学士教育課程)の検討と改革を求め、事態の改善・改革をうながす動きが顕著となってきた。これは文科省がいうからという問題以前に、各大学の自覚・自己責任・社会的責任の問題である。

本学部においても学士力の充実のための学士課程教育(学部教育)の編成を抜本的に見直し、工夫をこらした改革を行い、学部の教育力を飛躍的に高めていく準備に入っている。授業内容や授業方法の工夫・改善、出席や成績評価さらには卒業認定の厳格化、学生の授業評価や多様なアンケートの実施、等々課題は山積みである。拙速は慎みながらも適切・敏速に対応していきたい。

皆さんの御理解・御協力・御鞭撻を賜りたい。

高大接続について

中学・高等学校長・幼稚園長 木内秀樹



日本では現在、大学教育の内容と成果について大きな問題となっている。またそれとの

関連から、前段階である高等学校との接続や、高等学校における学力保証にまで検討が及ぼうとしている。

昨年三月、中央教育審議会の大学分科会は「学士課程教育の構築に向けて」という審議のまとめを公表した。その中では、「グローバル化する知識基盤社会において、学士レベルの資質能力を備える人材育成は重要な課題である」との基本認識のもとに、大学教育の質を保証するため「学士力」というガイドラインを設定することや「高大接続テスト」の創設が提案された。「高大接続テスト」については、大学全入時代を迎えAO入試の拡大など入試制度が変わる中で、大学一年生に高校の補習レベルの授業をしないと大学教育のスタートラインにつけない学生が増えつつある現状を踏まえて、検討が求められているものである。ワーキンググループの検討の中では、「高校卒業認定試験」の創設も議論になったが、

高校生の卒業認定は校長の決定事項であり、特定科目の点数だけで決められるものではないという理由による

り高校側委員からの強い反対があった。

しかし、大学全入時代を迎えて、生徒を高校から大学に進学させるにあたり、高校と大学との教育を円滑に結びつけるための方策を検討せざるを得なくなってきたのも事実である。大学進学が比較的容易になったため、大学進学希望者の指導・学習意欲の喚起が以前よりも困難となっており、また総じて学生の学習意欲の低下や目的意識が希薄化しているなどの現状・課題認識のもとに、分科会としては、大学の入試方法を点検し適切な見直しをすることなどを求めている。

また、高校と大学とが「選抜」だけでなく関係から、客観的できめ細やかな学力の把握とそれに基づく適切な指導によって学力向上が図られるよう、ともに力を合わせて取り組む関係へと変化することが必要だとの観点から、その方法の一つとして、高等学校の指導改善や大学の初年次教育、大学入試などに高校や大学が任意に活用できる学力検査(高大接続テスト)を行うことも検討されるべきだとしている。

いずれにしても、高校側に求められているのは、結局は高校でしっかりとした学力を身に付けさせる取組みの充実が必要だということに尽きようだ。

年男・年女のひとこと

己丑・辛丑・癸丑生まれ(男性) 乙丑生まれ(女性)

拳拳服膺 幸貫の言葉。

大学子ども学部子ども学科長 永井聖二



「年男」というのは節分の豆撒き当番のように思ってたが、それも五回目となるとあまり嬉しくはない。そろそろどんなゴールを目ざすのかを省察する時期なのかと思う。

真田幸貫は「老いて賢くなる者と愚かになる者がいるが、愚かになる者が多い」と自らを戒めたという。佐久間象山へのことばとして伝えられるが、先人に遠く及ばぬわが身が後者の轍を踏む時、いかに身を処すべきか。今年はやつくりと考えてみたい。

ロマンチストの願い

短期大学幼児教育科 准教授 野島博邦



私は年齢不詳で通してきましたので、丑年生まれであることがばれてしまい困惑しています。私はいつまでも少年の心を持ち続けたいロマンチスト(単に空想家)ですので、実際の年齢を時に思い出すと、

現実を引き戻されてしまいパワーダウンしてしまうのです。

戸籍上においては、確かに丑年であることには間違いありませんが、大草原に放牧されている牛(丑)が草を食むような穏やかな一年でありたいと願っています。

千支の丑を見習って

高等部 教諭 野川史



私が、東京成徳学園にお世話になってから今年で十二年目となる。奇しくも前回の丑年はこの学園の社会科教員の採用試験を受験した年であった。以来十一年間、授業では専門の日本史以外にも、世界史・地理・公民などを担当し、時には同時に複数の科目を担当していた。その時は、毎日が翌日の授業の教材研究という自転車操業の毎日であった。

昨年度からは担当も日本史だけとなったが、様々な科目を担当した経験は授業に生きていくと思う。もちろん授業にはまだまだ不満な点も多いが、干支の丑のようにゆっくりではあっても、着実に前進を続けていきたいと考えている。

一歩一歩着実に歩む

深谷高等学校 教諭 富岡達夫



深谷牧場では大澤牛をはじめ、関根牛・中里牛・小見牛・山田牛・富岡牛の六頭の牛が、今日も元気に暮らしています。

大澤牛は深谷牧場のボスです。たまたま中里牛・小見牛・山田牛・富岡牛は同じエリアで暮らしているので一応仲良くしています。関根牛はとなりのエリアで暮らしていますが、いつも暖かい眼でみんなを見守っています。ちなみに小見牛・富岡牛は、人生(牛生?)のちょうど半分を深谷牧場で過ごしています。

平成二十一年も一歩一歩着実に歩んで行きたいと思っています。

常に感謝の気持ちを意識して

幼稚園 教諭 遠藤美緒



年女という事で何か特別に意識することはありませんが、常に意識していたことは人への感謝の気持ちです。充実した日々を送

れるのは周りの人の存在があるからで、それを忘れずにいると自然に前向きになれる。今、私は年少組の担任をさせて頂いていますが、子ども達にも同じように感じてほしいと思いますし、そう感じる事で誰にでも思いやりを持って接することもできるようなってほしいと思っています。

大好きな子どもたちとともに

第一幼稚園 教諭 緑川梓



小学校の頃に抱いた幼稚園教諭になるという夢を実現し、三年という月日が過ぎようとしています。子どもたちと過ごす日々はとても充実しており、一つ一つが私にとつて大切な思い出であり、宝物でもあります。何より子どもたちの成長にかかわり、その姿を見ることができ本当に幸せであると感じています。今後とも、子どもたちの笑顔が多く、現場で見ることができるよう保育をしたいて思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

時の話題

蘆花の新書簡を発見

鶴巻教授の「演習(文化史)」で

昨年(二〇〇八年)は、「明治の文豪」と称される徳富健次郎(蘆花)が生まれて一四〇年目に当たる。故郷の熊本では、再評価を目指すシンポジウムが開催され、世田谷の旧蘆花邸(恒春園(芦花公園内))でも、連続講座が開催された。

徳富蘆花研究とはまったく無縁の私が、ひょんなことから、蘆花

書簡を整理することになり、蘆花書簡三七通を手にとることになった。そして、蘆花書簡の中に、今まで紹介されたことのない五点の新資料(はがき)を発見した。きっかけはこういうことである。

残されていた資料を借用して整理をすすめ、九月後半からは展示に向けた作業を始めた。展示は、中西月華と徳富蘆花の交流を明らかにすることとした。

のメンバーとの興味深い交流が詳細に描かれた。「演習」は、この作品の分析を出発点に、月華関係資料の整理を進めたが、展示資料の選択の過程で五点の未発表新書簡があることを発見したのである。展示会は、活字では紹介されていたが一度も公開されたことのない月華宛蘆花書簡をすべて展示した。新発見を朝日新聞千葉版平成二〇年一〇月二五日朝刊が大きく取り上げ、展示会にも多くの市民が来られた。

東京成徳大調査 交流伝える5点

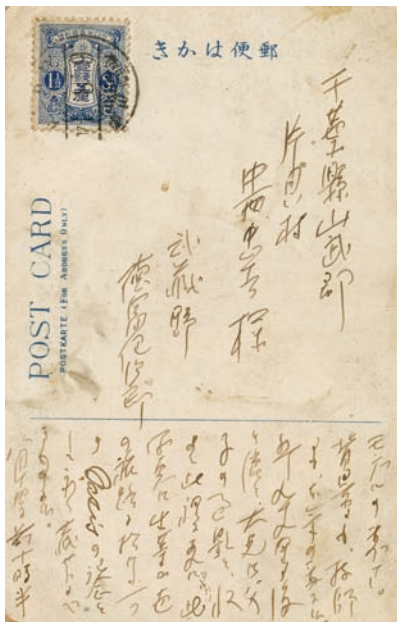


朝日新聞千葉版の紹介記事 平成 20 年 10 月 25 日

から、二年継続して履修できる「演習」が始まり、演習では積極的にフィールドワークをおこなうことになった。私は担当する「演習(文化史)」のテーマに「中西月華の中にした九十九里地方の文化・文芸運動」を選び、履修学生と共に、九十九里町の資料調査をおこない、成果は翠樟祭で展示公開することとした。地元研究者の協力を得て、運動の中心人物中西忠吉(月華)の子孫宅を訪ね、

蘆花は、大正6年、『死の蔭に』を出版して、死の危機から脱し、伊香保に遊び、さらに戦闘力をつかむことを目的に、九十九里の月華の別荘(茉莉舎)に一月滞在する。その滞在記は「九十九里」と題され、ベストセラー『新春』に収録されたが、中西月華を初めて

学生とともに資料整理を進めているが、研究はまだ緒に就いたばかり。中西月華とその仲間達が繰り広げた文化・文芸活動の全貌を掘り起こし、地域社会がもっている文化的な活力を明らかにしたいと思っている。



発見された月華宛の新書簡



滞在した月華の別荘の前の蘆花夫妻



NHKテレビでハングル講座 八千代キャンパスで公開収録

NHK「ユニ・ユニ(李 允希)教授が講師を務め、大好評のNHKテレビ番組「ユニ先生の出張ハングルクリニック」の公開収録が翠樟祭(大学祭)期間の昨年一〇月二六日(日)、八千代キャンパスのAVホールで行われました。当日は一般の方々に広く呼びかけ、人気番組だけに中・高年の方々も大勢参加されました。

韓国語は日本語と語順、表現、比喩など共通する点が多く、きわめて学びやすい言語です。ユニ・ユニ教授の質問に対して来場者が拳手し、韓国語で回答。ハイ・ソウですね!とニコリ笑顔で発音を指導され、和気あいあいの楽しい公開収録でした。

ひと

活躍する卒業生

豊かな心を育てる。

学校法人愛和学園 愛和幼稚園園長 榎本 京子



1. 東京成徳短期大学在学中に強く印象に残っていたらっしやることは

私が幼児教育科を卒業して三十四年が経ちました。

今は亡き木内四郎兵衛理事長先生や、当時も今もお変わりなく優しく微笑みながら活躍の木内秀俊学長先生を始め親しみやすく、熱心にきめ細やかなご指導をくださった先生方の専門的な講義も興味深く聴くことが出来、きちんと目的をもって一日も休まず真面目に取り組んでいたことを記憶しています。また天野蝶先生の「リトミック」の講義の時間には、程よい緊張感を持ちながら皆で真剣に挑み、到達した時には達成感も味わうことが出来ました。在学中に体験したこと、学んだこと全てが

今の仕事、幼児教育の現場に活かす事が出来ています。

2. 幼児教育を志された動機は、そして今の心境は

私の祖父が熊本県で保育園と幼稚園を開園し営んでおりまして、私も高校生の頃から、幼い子ども達と関わり、一緒に遊び、先生方のお手伝いをさせて頂いておりました。その先生方の生き生きとした姿を見て育った私は、この頃から「幼稚園の先生になりたい」と思うようになり、その夢の実現に向かってコツコツと地道に努力を重ねてきました。そして、その夢が叶って現在に至っております。ご縁があつて、練馬区に在る愛和幼稚園に就職することができました。園庭には、銀杏や樺の木、桜の木等の木々が沢山在り、野鳥や昆虫が集まり、池には金魚が泳ぎ、子ども達が折りに触れ自然を観察し知識や経験を広げて居ます。屋上には東京都が推奨している観察農園があります。二十日大根、枝豆ミニトマト、人参堀りや大根堀りを体験し、泥んこになって一生懸命収穫している子ども達の表情は、四季折々の植物と自然に触れ合う

ことにより、素直な子どもらしい子どもに育ち、優しい心と美しい物を美しいと感じる豊かな感性が育まれています。私も若い頃は子ども達と共に無我夢中で過ごして参りました。

そして今園長になってその責任の重さと社会情勢の変化に戸惑いながらも、子ども一人ひとりの個性を大切にしながら心を尽くして育むこと、を念頭において日々の保育に取り組んでおります。その傍ら主任児童委員を厚生労働大臣から委嘱され、地区のいじめ、虐待、不登校などの諸問題にも微力ではありますが取り組み、子ども達が幸せに過ごせるよう日夜見守り続けているボランティア活動も行っております。非常に多忙な毎日ですが、子ども達の純粋な心、笑顔に触れ、元氣一杯のパワーを貰って毎日元気に過ごせることを幸せに思うと共に感謝の気持ちで一杯です。私を育ててくださった先生方に改めてお礼を申し上げ、これからも幼児教育に日々努力を積み重ね邁進して行きたいと思っております。

3. 後輩へのメッセージをひとこと

どんな時代が来ようと流されることなく、自分らしさを大切に、何か一つ、人に負けない得意なことを身につけてください。きっとそれが自信となり将来皆さんの生きる力となることでしょう。それから子ども達に負けないくらい純粋な心を持ち続けられるよう努力しましょう。(短大幼児教育科九期生)

教職には「感性」が大切

東京都立王子第二特別支援学校 教諭 斉藤 あずさ



1. 大学在学中に強く印象に残っていたらっしやることは

大学での四年間は私の原点。大卒四年間という時間は、私にとって夢々なりたいたい自分を形作る大切な時間となりました。こんな仕事をしてみたい、という漠然とした夢から、実際に自分の足で歩いて行く未来へと、夢が一つの形となって見えるようになった大切な場所が大学です。

2. 今もその力を注ぎたい分野は

福祉と教育を選べるまでは、どちらにも顔を突っ込み、やりただけ学ぼうと両方のコースの単位を取りました。友人と共に、一週間のほとんどを教室で過ごし、毎日のようにサークルで汗を流し、とにかく、やりたいようにやりました。二つのコースの単位を取得することは、必然的に実習も多く、それに当てる時間のやりくりは簡単ではありませんでした。様々な分野には様々な現場があり、様々な人がいて、つながっている、その現場の空気に一つでも多く触れることができたのは、かけがえのない経験となつていきます。

3. 後輩へのメッセージをひとこと

「気づき」には、早すぎることも、遅すぎることもないと私は思っています。その時から、自分の足で、自分の未来に向かって歩いて行ってください。同じ、歩いている者として、心から応援しています。(人文学部福祉心理学科七期生)

就職状況

「八千代キャンパス」

就職課長 阿部 博英
 厳しい環境ではありますが、
 負けずに頑張りましょう！

今年度の就職戦線は、夏休みを挟んだ前半と後半で環境が激変しております。とりわけ十月以降は、九十年代のバブル崩壊時に匹敵するような厳しい就職状況となっております。八千代キャンパスの就職希望者に対する就職内定率（外国人留学生は別集計）は十二月末現在、六九・一％と、昨年比八・七％マイナスの状況となっております。

就職課ではこの苦境を撥ね返すための方策の一つとして、十一月十日に「緊急内定獲得ガイダンス」を開催しました。厳しい就職環境を逆に人材獲得の好機と捉えている「元氣な中堅企業」の求人を紹介し、



学内共同企業セミナーの様子

翠樟祭二日目の十月二十六日（日曜日）に、今年第二回目となった「就職活動『保護者懇談会』開催」を開催しました。今年も三年生の保護者を中心に多くの皆様にご参加頂きました。学科毎の先生がたの懇談はたいへん盛り上がり、「参加して良かった」とのご感想を多数頂きました。私共教職員にとりましても、ご子弟の進路に対する保護者のお考えを直接伺いできる貴重な場となりました。

内定獲得に向けた面接の機会を提供しました。ガイダンスに参加できなかった人にも個別相談などを通じて企業紹介に努めています。

前半に内定を獲得できなかった四年生にとっては長期間の就職活動を余儀なくされておりますが、諦めずに頑張ってほしいと思います。就職課も全力でサポートしていきます。

「就職活動『保護者懇談会』開催」

過去3年間(11~13期生)の主な就職先	
青山商事株式会社	株式会社トーカイ
アースサポート株式会社	東武ステーションサービス株式会社
曙ブレーキ株式会社	株式会社トーモク
エスエス製薬株式会社	株式会社西川
オイレス工業株式会社	日本ハウズイング株式会社
株式会社大塚商会	株式会社白洋舎
株式会社オンワード樺山	東日本電信電話株式会社
鹿島建設株式会社	日立キャピタル株式会社
木更津市農業協同組合	株式会社ビックカメラ
株式会社ゲイン	株式会社フジスタッフ
近畿日本ツーリスト株式会社	株式会社ブルーグラス
株式会社広域高速ネット296	株式会社ベイシア
株式会社群馬銀行	株式会社ベネッセスタイルケア
株式会社グローバル住販	株式会社間彦
三晃印刷株式会社	(福)横の美会
株式会社重松製作所	株式会社ミキハウス
(医)思誠会 勝田台病院	三菱UFJトラストビジネス株式会社
株式会社すかいらーく	メルキュールホテル成田
(医)聖母会 聖マリア記念病院	株式会社ヤマダ電機
総合警備保障株式会社	郵便局株式会社
株式会社そごう	株式会社読売旅行
千葉県警察	リゾートトラスト株式会社
(福)千葉県社会福祉事業団	りそなグループ
東栄信用金庫	(福)ロザリオの聖母会
東光電気工事株式会社	株式会社ワールドストアパートナーズ



「十条台キャンパス」

学生生活課長 溝田 一夫

(一)短大の就職状況について

本年度の一般企業への就職状況はこれまで打って変わって夏前から厳しくなっております。特に採用を絞り込むなど短大生の秋採用に影響が出ておられます。十二月末日現在の就職内定率は、言語文化コミュニケーション科は六十二％、ビジネス心理科は六十四％と昨年比約十％減となっております。未内定の学生たちは今も積極的に就職活動をしております。

幼児教育科では例年、保育職・一般企業への就職・進学を含めて卒業生の九十％以上が進路を決定しておりますが、卒業生の八十％超が保育職として巣立っております。保育職の就職活動は秋以降が本番で、学生たちは現在一生涯懸命就職活動に打ち込んでおります。

本学では一般企業・保育系共に教職員一丸となり、一年



浅岡先生による面接マナー講演

子ども学部では、三年生前期は、「職業適性論」などの講義・演習を通して将来のキャリアビジョン構築を指導、後期からは希望進路別に分かれて、よりきめ細かく実践的に進路支援を行っております。

(二)子ども学部就職状況について

子ども学部では平成二十年三月に第一期生を送り出し、現在第二期生が就職活動を行っております。子ども学部では三十％が一般企業、七十％が就職・保育職を希望しております。

一般企業では本年度も子供服販売、玩具卸、子供写真館等の子供関連企業の他に、保険業・建設業・商社・アパレル等へ内定を得ております。

就職・保育職では、秋以降が本番で、学生の就活は熱気を帯びております。

生後期からきめ細かく進路支援を行っております。

過去3年間の主な就職先	
短期大学	子ども学部
株式会社伊勢丹	石川玩具株式会社
株式会社オンワード樺山	第一生命保険会社
北野建設株式会社	日本トイザラス株式会社
株式会社KNTツーリスト	ミキハウス株式会社
城南信用金庫	郵便局株式会社
株式会社JTB首都圏	郵便事業株式会社
株式会社ホテルオークラ東京	ライフサポート株式会社
株式会社ホテルオークラ東京ベイ	葛飾区立北住吉幼稚園
丸井グループ	飛鳥すみれ幼稚園
株式会社三菱東京UFJ銀行	入西幼稚園
明日香幼稚園	久我山幼稚園
安行幼稚園	白うめ幼稚園
浦和明の星幼稚園	東京成徳短期大学附属幼稚園
黒田幼稚園	西三田幼稚園
チェリー幼稚園	練馬白菊幼稚園
東京成徳短期大学附属第二幼稚園	ひかり学園幼稚園
豊四季幼稚園	八木ヶ谷幼稚園
さいたま市立保育園	北区保育園
世田谷区立保育園	さいたま市立保育園
新座市立保育園	新宿区保育園
三郷市立保育園	中央区立保育園
宮代町立保育園	文京区立保育園
東十条保育園	とねの会保育園
至誠会保育園	雲社社
太陽の子保育園	みなみ子育て支援センター

大学院

大学院第二回中間発表会について(平成二十年度)



十月十八日(土)の午後一時から、大学院校舎二階の講義室において、第二回修士論文中間発表会が開催され、修士二年生二十二名全員が発表を行いました。修士課程では、一年生の三月に論文構想発表会で自分の研究テーマをお披露した後、二年生の五月と十月に中間発表会を行い、研究倫理などの審査を経た上で、翌年一月二十日の論文提出日に向けて、自らの研究を進め論文を完成させていきます。第二回中間発表会はポスター発表形式で行なわれました。今回の中間発表会は、全員の先生方や先輩・後輩院生からも直接意見をもらえる、論文提出前の最後のチャンスです。修士二年生



の院生達は、数週間前から現時点での調査結果のデータをまとめた、論点を絞り込んだり、行き詰まり点などを明確にして提示するなど、工夫を凝らした発表用ポスターを熱心に作成していました。今年度の研究テーマは、子育て支援、親子関係・夫婦関係など家族にまつわる問題から、青年期の心理や死生観、怒り、自殺防止にまつわるメンタルヘルスの問題、抑うつや自己愛に関する問題など、実に幅広い多彩な研究テーマになっています。発表会当日は、各発表者に参加者が熱心に質疑したり、真剣な討論が展開したりと、三時間が一瞬に感じられるほど熱気に溢れた、実り豊かな発表会となりました。新たな刺激を受け、院生達は論文完成に向け、それぞれの研究に進んでいます。

大学院

平成二十年度
臨床心理士資格試験、
二十一名が合格。

世相が乱れ、多発する社会問題や幼児から高齢者の方々が抱える「心のなやみ」に対応できる心の専門家「臨床心理士」が一層求められています。責務が重いだけに資格試験は難関です。資格試験は財団法人日本臨床心理士認定資格協会が毎年秋に実施し、資格が与えられます。試験は一次試験(筆記試験)、二次試験(口述面接試験)に分けて実施され、臨床心理士として必要な基礎心理学、臨床心理学全般、関連領域に関する知識と実習等での臨床経験について審査されます。職務としては①教育の分野②医療・保健の分野③福祉の分野④司法・矯正の分野⑤労働・産業の分野のほか多岐にわたっています。

本大学院は協会から「新一種指定校」の認定を受けているため、大学院修了の年に受験資格が与えられます。平成十九年度修了生は二十三名が受験し、十九名が合格という好成績をおさめました。各分野での今後の活躍が期待されます。

大学

イギリス研修

八千代キャンパス国際交流委員会では学生の視野を広げ、語学力を向上させるため、六カ国十一大学への長期留学や短期語学研修をはじめ、さまざまなプログラムを用意しています。昨年八月夏季休暇中に英国ロンドン郊外のギルドフォード大学で二週間にわたり英語研修を実施しました。参加学生たちは午前中の授業ではレベルごとに三つのクラスに分かれて受講しました。最初は苦戦した学生たちもいたようです。

午後のアクティビティでは合流し、他国からの留学生といっしょにさまざまな体験をしました。ホストファミリーにも恵まれ、日常会話を学び、伝統あるイギリス文化を直接肌で感じ、貴重な体験を積むことができたと思えます。

考え方や人生観が
良い方向に変わった

国際言語文化学科英米言語文化専攻 三年

神田 和貴

アメリカ英語と比べてイギリス英語は日本人の耳には聴き取りやすいと言われていたが、実際に行ってみると僕はそう感じなかった。普段大学ではほとんどアメリカ英語を聴いているからかもしれない。

ほかの国からの留学生と一緒に授業を受けたが、その国々によって英語の発音の癖がさまざまだった。他国の人は僕らより二週間ほど早く授業に参加していて、僕ら

との英語の出来の差は明確。逆に短期間でも力はつくということがあった。授業の主な内容は、英語で英語の文法を習うこと。最初と最後にミニゲームをやるという感じだった。最初は何を言っているかわからなかったが、三、四日目で驚くほど聴き取れるようになった。

留学を通して、日本人はほかの国の人に比べ、どちらかというと引込み思考で、そのため集団行動がうまくいかなかった。英語を話すにも聴くにも、繰り返し頻繁に使い、慣れることが必要だと感じた。その適応の能力の高さに驚いた!



大学

白石高等学校 短期日本語研修について

人文学部国際言語文化学科 助教 水谷清佳
七月七日から八月一日まで、生きた日本語と日本文化を学ぶ短期日本語研修に参加するため、韓国白石高等学校の学生たち二〇名と引率教員二名（半期ずつ交代）が来日しました。今回初めて実施された本学での研修には、募集定員をはるかに上回る応募があり、書類と面接審査によって選ばれた学生が参加したとのことでした。

主な研修場所は国立オリンピック記念青少年総合センターです。学生たちはセンターに宿泊しながら午前中は日本語の授業を熱心に受け、午後からは見学授業や体験授業に参加するハードなスケジュールをこ



なしました。なかでも浴衣の着付け体験が印象的だったようです。慣れない帯や下駄に戸惑う姿も見られましたが、浴衣姿で赤坂での盆踊り大会に参加し、真夏の日本の夜を満喫しました。

それ以外には浅草、八千代・十条台キヤンパス訪問、東京ディズニーランド、東京都庁見学、歌舞伎鑑賞、日光への日帰り旅行、造幣局見学、茶道など日本の伝統文化と現代文化を存分に肌で感じました。ほとんどの見学・体験授業には本学の学生たちが共に参加してくれたため、より一層楽しい思い出ができたようです。

休日には電車を乗り継ぎ「ここまで一人で行けた!」と話してくれる学生もいました。最初は東京の複雑な路線図に驚いていた彼女たちが、外国を一人で回れるようになったことは今後自身の大きな自信に繋がることでしょう。また、日本語がほとんど話せなかった学生も、帰国前になると自分の意思を伝えられる程にまで上達しました。

約三週間の短い研修でしたが、白石高等学校学生はもちろん本学学生たちにとっても忘れられない貴重な時間となったようです。「次回も是非また参加したい」という声を聞いてこの研修の成功を実感しました。

大学

女子サッカー部部員 知的障害者サッカー大会・教室に「ユースリーダー」として参加

女子サッカー部顧問 共通領域部 教授 木幡日出男

女子サッカー部は昨年度設立され、今年度から本格的に活動をスタート。普段の練習や試合のほかにスポーツを通してボランティア活動に積極的に取り組んでいます。

去る八月三〇日（日）千葉県総合スポーツセンター東総運動場にて（財）千葉県まちづくり公社主催、千葉県知的障害者サッカー連盟共催による「第三回サッカー教室」が開催され、前回（六月八日市原スポーツパーク）に引き続き本学女子サッカー部部員のうち四人が「ユースリーダー」としてボランティア活動に参加してきました。



へのサッカーおよびスポーツ活動の普及
②サッカー、スポーツを通して心身の健全な育成、そして③その余暇支援をその目的として開催されています。

当日は、残暑の中、小学生から高校生までの一八名の仲間たちが整備された芝生のグラウンドで楽しくドリブルや的当て、ミニゲームに興じました。高校生サッカー部が、学生は当初は戸惑いつつも、プログラムが進むにつれ、参加者に笑顔で声をかけながら一緒に楽しむ姿が印象的でした。

学生たちは、サッカーというスポーツを通して人と人とのつながりを築きながら相手を思いやり、共にパスを交換する喜びを肌で感じる事ができたようです。まさに、「スポーツを通して「一人一人がつながっている喜び」を実感できました。同時に、



段の福祉や臨床心理などの授業で培われた知識や技術（接し方や声のかけ方など）を駆使してサポートしていました。参加者以上に学生自身がボランティア活動を通して得るものが多いためサッカー教室だったようです。

大学

スウェーデン研修旅行

異文化理解から
福祉心理学を考える

福祉心理学科 准教授 石田 祥代

二〇〇八年度の北欧スウェーデン福祉先進国研修旅行は八月二十五日から九月三日までの一〇日間の研修でした。二度目参加の研修生が四名おり、前回と比較できるよ

う夏期開催としました。「異文化理解から福祉心理学を考える」をテーマとし、従来と同様に高齢者・児童福祉心理分野から考えること



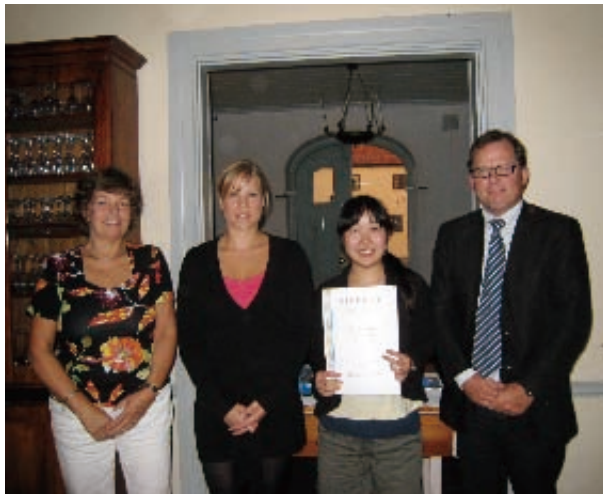
これまで研修で出会ったスウェーデンの学生らが研修前に訪日していたため、新旧の研修生らは東京で交流を深めました。そして、渡瑞後にそれぞれの学生と再会する場面が見られ、引率教員としては感慨深く感じました。本年度の研修では、スウェーデン・デンマーク・イギリスの諸都市を訪問することができたため、研修生らは同じヨーロッパであっても各国がそれぞれの価値観と文化を有していることを目の当たりにしたようです。

実感をこれからの人生に
活かします！

福祉心理学科四年 林有加

今回の研修で初めてスウェーデンを訪れました。福祉研修をはじめ、スウェーデン・デンマーク・イギリスの街並み、人々の習慣、どれをとっても日本との違いに驚き、感激の日々でした。

福祉研修においては、スウェーデンマルメ市の小中学校が一番印象に残っています。授業や学校活動のプログラムは年齢による固定式クラス単位ではなく、個人によって作成されていました。これ



は移民が多いマルメ市ならではの感嘆していましたが、日本にも同様のプログラムが存在すると教えていただき、機会があれば調べてみたいと思っています。この研修を通して、自身の海外への関心が増したことを実感しています。この実感を無駄にせず、これからの人生に活かしていきたいと考えています。

個人のニーズにあつた
対応や設備

臨床心理学科二年 塩沢 奈保

私はスウェーデン研修に二回参加しました。

一回目の時はあまり勉強しないうえに、日本と比較することができないことがたぶんありませんでした。二回目の時は福祉の授業を受けたりして、勉強してから行ったので、前回よりもよ理解を深めることが出来ました。夏と冬のスウェーデンの雰囲気は全然違います。夏は夜の八時頃

まで明るくて、外に人がたくさんいます。みんな明るくて楽しそうに、いきなり広場で馬とびをし始めているだけで楽しかったです。冬は静かで霧が多かったですが、お店の中にロウソクが灯っていて綺麗でした。

スウェーデンの福祉施設は、利用する人のことをよく考えてあつて、個人のニーズに合った対応や設備が整っていました。日本だと、学校や施設の手椅子は全部同じ色なのに、スウェーデンでは、その子の好きな色や好きなキャラクターのカバーになっていたのには驚きました。これなら、税金が高くて納得できると思います。二回とも同じ施設に行くこともありましたが、見学や講義を受ける施設がほとんど違って、一回目の時に見学が出来なかつた施設や、臨床関係の施設、私が行きたいと思つていた施設にも行くことができたので、二回参加できて良かったと思つています。また、前に仲良くなった Lund 大学の学生さんたちと再会することができてとても嬉しかったです。一緒に出掛け話すことができて楽しかったです。

子ども学部

「子ども学」とは（リレー連載⑤）

児童福祉的視座より

子ども学部 教授 埴利明



最近、国民健康保険（国保）の保険料滞納件数が急増している。そのため、保険給付が停止し、医療費が全額自己負担になった結果、家族が病院で診したくても経済的な理由から病院に行くことを躊躇ってしまうケースが目立ってきたとマスコミでも話題になっている。

こうした場合、意見は二つに大別される。国民のモラルハザードが行っている昨今（事実かどうかの検証は必要であるが）、悪質な滞納者への対抗策として国が平成十二年度より国保の実際の窓口となる市町村に、一年以上の保険料滞納者には保険証の返還をさせ納付を促すよう義務付けた方針を支持するものである。義務を果たさない人々に対して、ある意味、因果応報的手段を行使するのは至極当然であるとする見解である。

他方、長期化した不況の波は保険

料を払いたくても払えない経済的困窮層を社会に形成したのも事実である。構造改革に端を発する新自由主義的な政策に帰結するところが保険料滞納等に代表される弱者の急増とするならば、こうした窮状を抱えた人々を国が救済するのは責務であるとする考え方も成立する。

しかしながら、問題はこうした施策によって、保険料滞納者の子どもたちにもその皺寄せが出てきていることである。厚生労働省の調査では（平成二〇年九月現在、全国に中学生以下の子どもたちが三万二九〇三人いるとされる。福祉はこうした弱者のセーフティネットとなるべき制度である。とりわけ、児童福祉法では、「国及び地方公共団体は、児童の保護者とともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う。」と子どもへの保護を明文化している。保険料滞納に至るまで如何なる経緯や理由があるろうと、その影響が子どもたちに及ぶことだけは絶対に回避すべきである。「子どもは親を選べない。」とは児童虐待防止を謳う際の常套句であるが同様に、「子どもは社会を選べない。」ということを今一度、再確認すべき時期かも知れない。

短期大学

初秋の信州で、「書道」をみっちり楽しく



言語文化コミュニケーション 科長

樋口 信夫

言語文化コミュニケーション科で書道を学ぶ学生たちは、九月八日から一〇日の三日間、長野県穴沢温泉の松茸山荘別館東山館で、合宿練成会を行いました。合言葉は「温泉につかり、おいしいトウモロコシを食べ、風に揺れるコスモスの中で字を書こう」でした。澄み切った空気が、美しいコスモス、広く明るい和室で真剣

に筆を執る学生たち、お互いがお互いに刺激を交わしながら、深夜まで創作活動に励みました。合宿ならではの気持ちのこもった力作が次々と生まれました。松本城はじめいわさきちひろ美術館、松本市美術館など歴史のある松本市の名所見学も合宿のよい思い出になったようです。トウモロコシがトマトに変わった他は合言葉通り。参加者は大満足、成果の多かった秋の合宿でした。

短期大学

観光ビジネス実務士 一四名が取得

言語文化コミュニケーション科

教授 藤田洋治

この資格は、全国大学実務教育協会で認定した大学・短期大学で一定の科目を修得することで獲得できる資格です。本学は昨年度から導入し、今年度始めて一四名が資格を取ることになりました。この資格は、旅行・ホテル・航空などの、観光ビジネスの実務に関わる基礎知識・専門知識を学び、かつそれに必要とされる技術と実務能力を持つて示すものです。現在全国で七大学と一〇短大が認可を受けておりますが、観光庁も発足し、各大学も観光学部、学科を設置し始めている現在、ま

すますます多くの大学が参入してくる分野であると思われます。カリキュラムは、必修三科目が「観光概論」「観光事業論」「観光ビジネス総論」の6単位、選択科目が第I群・観光基礎分野で、三科目六単位以上、第II群・観光ビジネス関連分野で、四科目八単位以上、第III群・ビジネス実務関連分野で、五科目一〇単位以上の、合計三〇単位以上を取得しなければなりません。この中には、例えば、フィールドワークやホスピタリティ論、観光関連法規などのほか、コンピュータやプレゼンの技術なども含まれます。

観光庁について

平成十九年一月、観光立国推進基本計画法が施行され、同年六月に閣議決定がされました。観光立国実現は二十一世紀の我が国経済社会発展のため不可欠な国家的課題であると、昨年十月一日国土庁に「観光庁」が設置されました。観光庁の五つの目標。①訪日外国人旅行者数…一〇〇〇万人②日本人海外旅行者数…二〇〇〇万人③観光旅行消費額…三〇兆円④日本人の国内観光旅行による一人当たりの宿泊数…四泊⑤我が国における国際会議の開催件数…五割増この目標達成のため施策の実施を強化し、生産波及効果・雇用創出効果・経済波及効果を企図していきます。

幼児教育科

第二十二回保育研修会 「新教育要領と保育指針をこれからの保育に活かす」
協同性を伸ばす保育とは

幼児教育科恒例の保育研修会が十一月十五日(土) 十条台キャンパスで開催されました。

幼児教育は大きく変わろうとしています。昨年三月に「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」、さらに「小学校学習指導要領」が相次いで告示されました。今回の研修会はこのテーマを基に午前中は白梅学園大学無藤隆教授が「これからの保育実践に生かす保育指針と教育要領」と題し、これらの告示を踏まえて新しい指導計画にまとめ、現場の教育にどう生かすかを講演され、午後は八つの分科会に分かれ講師の提言・具体的な活動報告・指導などが行われ実り多き研修会でした。



A分科会 私の提言一

幼児教育科 教授 和田 信行
一・今こそ幼小連携を

保幼小の連携は前々から提言されてきましたが、実際にはそれぞれの校種の壁があり、十分な連携が行われてきませんでした。この分科会では、今なぜ保幼小の連携が大切なのかを実践事例を通して提言をさせていただきました。

就学前の五歳児での「協同性な学び」「協同性の育ち」をどのように高めていくかを幼稚園の活動を通して紹介を致しました。学級やグループで、協力をしながら、目的をもって、計画的に活動をすることを通して育てていく力が大切ではないかということです。

小学校では、四十五分単位の時間割による授業が中心ですが、入学当初の二ヶ月間程度、新一年生が学校生活に滑らかに接続できるように段差を解消できるように工夫をしてはどうかという提言を致しました。「わくわくドキドキタイム」として実践をしている事例を紹介させていただきました。

就学前の幼稚園や保育所での「入学準備カリキュラム」と小学校一年生の入学式直後から始まる「スタートカリキュラム」が機能していくと、小一プロブレムも解

消されることでしょうか。また、すべての子ども達が幼小連携の恩恵を受け、楽しい学校生活を体験できるようにする必要があります。

二・保幼小連携の実践

(パネルディスカッション)

後半は、本学を卒業して保育現場で活躍されている四名の方にパネラーとして登壇いただき、パネルディスカッションを致しました。保育園の園長先生や保育士の方々から、幼小連携の実践の様子をお話いただきました。羽村市の保幼小の連携協議会の例を紹介してくださった園長先生や、近隣の小学校と連携をしている保育園の先生、連携をしたくても小学校の先生からよい返事をいただけないという先生など、具体的な保育現場での話を基に協議ができて大変有意義でした。このやりとりを聞いていたフロアーの在校生から、「幼小連携について演習で勉強していますが、実際には大変なんだなあと思いました。」との感想もありました。机上の勉強だけでなく、現実を直視した勉強もでき在校生にとっても有意義な保育研修会でした。パネラーのみならず、ご協力ありがとうございました。

ビジネス心理

「ビジネス心理科」は、さらに「経営学部」へと進化!

ビジネス心理科長 松坂 毅宣

ビジネス



心理科は、平成十三年、「このころの時代」と云われる二十一世紀の最初の年に、マー

ケティングと心理学を融合させた日本で唯一の学科として設立されました。心理学をベースにして、その心理学の知識・技能・法則をビジネス活動に生かして、仕事を、効率よく、円滑に遂行し、仕事と職場に自信を持って適応できる人材を育成する教育の場としてスタートしました。水口禮治科長のもと、毎年のようにカリキュラムを改変し続けながら、教職員が心をひとつにして指導した結果、企業からみても卒業生の評価は次第に高まり、求人申し込み件数が増加して、就職先企業の内容も就職率も大きく向上してまいりました。

お蔭様で二〇〇八年度の受験者数は過去最高に達し、選抜後も九十九名の入学を認めて三十三人ずつ三クラスに増やした次第です。社会情勢や労働市場を展望しますと、アメリカに最初の黒人大統

領が誕生したように、国際政治は共生・平和の時代を志向し、また国際経済は高度情報化により市場が同一化・同時化し、急激な変化が見られます。文化的には高度成熟社会になりライフスタイルも価値観も多様化が進み、様々な立場や生き方の人々が共存する時代となりました。実務に就いて活躍している卒業生の話からも、自分が増加するでしょう。ビジネス心理科は開設時から四年制の学部にあわせた構想を抱いていましたが、「今がその時、その時が今」となったわけです。

ワークショップ

平成一四年三月に政府、日本経営者団体連盟及び日本労働組合連合会は、「ワークショップ」についての基本的な考え方」について合意しています。しかし急速な景気下降に伴い、各企業が雇用調整をせざるを得ない現在、労働時間を短縮して雇用を確保するワークショップについて、緊急的な雇用対策としては残念ながら難しいようです。

原爆が投下された長崎を訪れて（九州修学旅行）

五年三組 加藤愛菜

行く前に感じていた疑問は「原爆が日本を救った」というアメリカの主張は歴史的事実に基づいたものであるのかということだ。つまり、実験という目的で投下された原爆が、実際に終戦を早めた事実はあるのか、ということだ。この点においては、人によって意見が違う。「早めたわけではない」という意見が多数派ではあ

るが、日本の官僚でさえも「早めた」と発言したことがある。なぜそう言えるのか。アメリカの主張をうのみにしてか、投下から終戦までの期間の短さを単純に結びつけて考えているのか、どちらにしろ原爆体験者の話を生で聞いた私の結論としては、「早めた」という意見はまったくの間違いであるということだ。

まず第一に、アメリカ側は原爆

投下前に終戦後のことを想定していた。

原爆を投下する都市の候補に京都が挙げられた時、ある上級の軍人が文化財が多くある京都を壊滅させてしまうと日本人の反感を買うことになり、占領政策ができなくなるという理由で反対し、却下された。つまり、すでに日本の敗戦がかなり色濃く意識されていたということになる。

第二に、広島に原爆が投下された三日後に長崎にも投下している点だ。常識的に考えると、広島に原爆を投下した後、初めて使用された未知の兵器の効果についてはしばらく様子を見てから次を落とすはずだ。しかし広く知られているように広島型と長崎型は爆弾の種類が違い、データをとるためにアメリカはどうしても二発落としたかった。それがソ連が満州に入ったことで、日本がすぐ降伏する可能性がでてきたと判断し、急いで二発目を投下した。間もなく戦争が終

わることになり、間に急いで投下したと考えられるのだ。原爆によって終戦が早まったという事実はない。それどころか、アメリカは最後まで実験の遂行にこだわっていたのだ。

もう一つ知ったことがある。それは日本人同士の偏見や差別だ。広島や長崎では一つの共同体ができあがっていた。その人々は被爆者であるのが当然であるため、「どこで被爆したのか」が挨拶のようになつていった。互いに苦しむ者同士が必死に生きていた。しかし、ひとたび違う土地へ行くと、差別を受けることがあった。例えば、東京の人と結婚する時、「あなた

は被爆者ですか」と聞かれる。故郷では当然のことなので、何も考えずに「はい」と答えてしまうと、結婚ができなくなる。子どもに放射能の影響が及ぶと一般に考えられていたからだ。被爆した胎児は小頭症であるなどかなり強く放射能の影響を受けていたからだ。しかし、現在のところ、研究所の発表によると、被爆時に胎児であった者以外は被爆者の子どもには影響が及ばないとされている。また、共同体内での差別もあつた。直接原爆を受けていない者への差別だ。爆心地より遠くで被爆し、家族を捜しに爆心地に入った直後から原爆の初期症状で苦しみ、亡くなった方が大勢いる。ここから考えられることは、被爆しなくても爆心地に入れば原爆の影響を受ける可能性がある、ということだ。少なくともその位のこと

は当時の人々にも理解されていたはずだ。しかし、被爆当時県外にいた人々が、被爆者手帳を持っていると、「ピカを知らないのにお金をもらっている」と冷たい目でみられた。この人々は入市被爆者と呼ばれ、被爆者の救助のためにどに入市した人も含まれる。放射

能の影響だと思われるような病気にかかり、長年国に対して補償を求めてきた人々だ。最初に補償を受けられるようになった時、爆心地から二キロ以内までの距離に入った人しか補償されなかったが、二・五キロの地点で白血病患者が多く発症し、やがて三・五キロまで補償を受けられるようになった。また、千葉地裁が認定訴訟で肝機能の障害も認可したことにより、白血病患者以外でも補償をう

けられるようになった。ここまでの補償を受けられるようになり、偏見がなくなるまで、長い間努力を要した。しかし、三・六キロの地点で白血病になった人は、例え放射能の影響であっても補償は受けられない。三・四キロの地点で発症した人は放射能の影響でなくても受けられる。という問題が発生する。科学的証明が不可能であるため、距離で線を引くしかないからだ。放射能は未知の兵器だからこそ、その被害については科学的根拠よりも現状が先走る。つまり六十年以上たった今でも、被害の全容はわかりきっていないということだ。私が長崎で強く心に刻んだのは、その事実だった。



太宰府天満宮にて

中高一貫部

劇団四季「キャッツ」鑑賞会

このミュージカルは、イギリスの詩人T・Sエリオットが孫たちのために書いた詩集を原作としています。ロンドンで二十一年、ブロードウェイで十九年のロングランを続けましたが、日本では一九八三年以来、全国主要都市で公演され、なんと昨年十一月に二十五周年を迎えています。中学二年生の感想を紹介します。

一生懸命手をたいた

二年一組 石川 莉帆

観にいった日の朝は特にわくわくもせず、そこまで期待していませんでした。会場に入った時もうだいたい予想していたのであまり感じたことはなかった。けれど、劇が始まると、ポスターで見ただけでは分からなかった動き、声などがすぐくて、特に動作は本当に猫らしくて人間が演じているということが忘れそうになることもあった。あと、会場に入った時、席が三六〇度全部にあるから、どこで劇をするのだろうと思っていた。そうしたら席が動いて舞台も動いた。よく考えたな、とも思ったり、始めから観客を圧倒させてすごい、とも思った。他にも壁が開いたり、私達の席の後ろの方から出てきたり、また踊っている時、観客の女性を舞台に連れていったり、ハプニングが多くて眠気なんてどこかにいってしまった。休憩

を過ぎると私はどんどんCATSを観ることが楽しくなってきた。歌や演技、ダンスなど皆上手で、しかもダンスはみんなびったりと息が揃っていきいだった。最後の方になるとそのダンスを楽しそうに、堂々と踊る劇団の人達を見て、自然と私は笑顔になり、一生懸命手をたいた。きつと劇団四季の人達は観客を笑顔にさせたからこの仕事をしているのだと思う。CATSを観て本当に良かった。とても良い劇を観たと心から言える。

「CATS」が愛された理由

二年三組 大久保 諒

一月一日、「CATS」の劇場鑑賞に行く時、電車内で「CATS」の広告を目にしました。初めて「CATS」を知ったのは、一年生のミュージカル鑑賞を終えた後でした。親に聞いてみたら知っているとどこか、観たことがあるという答えでした。親の世代から愛され続けて二〇年以上も経った今、なぜこんなに長く「CATS」が愛されているのか。そんなにも面白いミュージカルなのか。ワクワクしながら出発しました。五反田の「CATS」シアターの観客席に入って驚きまじった。今にも猫が出てきそうな都会のゴミ場のような舞台で観客席までセットの一部になっていまし

た。ミュージカルが始まった時、いきなりステージが回りだし猫たちがステージ上を優雅に滑っていました。と思ったとたん、静かな雰囲気からどんだん明るく楽しい音楽に変わり、猫たちが踊りだしました。まず静かな音楽から始めてだんだん明るい音楽に変わっていき、この繰り返しパターンでいろんな猫の人生が映しだされます。物語が進んでいき観客席も舞台の一部になり、より面白くなってきました。クライマックスに近づいて僕はドキドキしました。まるでジェットコースターに乗り、徐々に上がっていくような展開でした。ミュージカルが終われば感動しました。音楽に合わせて踊る猫たちに感動しました。もうすぐ二十五周年を迎える「CATS」。愛された理由を改めて納得しました。



中高一貫部

中国修学旅行

百聞は一見に如かず

中国修学旅行のアンケートの結果を見ると、出発前は北京の印象が極めて低い一と二が中高一貫部五年で四一%、高等部二年で二六%もいた。それが帰国後は評価四と五が中高一貫部五年で六一%、高等部二年で八〇%と極めて高い評価に変わってきている。現地での見聞・体験の成果と思われる。

肌で感じた中国

五年三組 深井 稜汰

中国にいる間に最も肌で感じたことは、やはり幾分の文化の違いだ。特に、お店やホテル、空港などでの接客、対応の違いは大きかった。デパートの店員は平気でお金を受け渡しし、空港の係員は挨拶をしない。このような、一見ささやかな違いに僕はかなり戸惑ってしまっていた。このことで憤っている友人も多かった。しかし、一日・二日と滞在するにつれて、それ



世界遺産の天壇公園

はどちらが正しいのか、という問題ではないことに気付いた。中国の人にとっての十分なコミュニケーションはそれだけで成立しているのかも知れない。また今回の修学旅行では、全員が興味のある分野について調べ、事前レポートを作成した。自分が調べたテーマは「京劇」だった。北京の伝統演劇のことで、今回の旅行の行程にも組まれているものだ。日本でいう「歌舞伎」のような位置付けである。調べた段階では、お堅い、古くさいものだろうという認識だったが、実際に見た京劇はとても面白かった。写真で見るとより立ち回り(いわゆるアクロバティックなシーン)はずっと迫力があり、ストーリーも分かりやすい。勿論事前に調べていたことも役に立ったと思う。機会があったらまた見てみたい。後輩達は中国に関する報道を見て、不安に思っているかも知れない。基本的に中国は近い外国だから、多少の違和感を除けば日本とそう変わりはない(と今は感じている)。むしろ、北京には東京と違った魅力があって、面白いはずだ。日本で頻りに中国の汚点を放送されるのも、似ているからこそ、この部分があると思う。だから心配せずに異国の文化を体感してきて欲しい。

高等部

例年に負けない位盛り上がった桐蔭祭

若者らしい発想による数々の企画、学校全体の盛り上がりの結果を表現するビックイイベント「桐蔭祭」が九月二十七日・二十八日の両日開催されました。

「観る・見る」「食べる」「遊ぶ」と目的別になんと六十五の参加団体が趣向をこらして競いあい、後援会の方々も「餅つき」を行い、搗きたての餅をふるまい来場者を楽しませてくれました。

「ライオンキング」
秋の文化祭でグランプリに輝く

三年JK組 爆笑劇団代表 渡辺 良太
そもそも文化祭の十日前、私たちはまだやる事が決まっていな



かった。そして、話し合いの結果ライオンキングをやることに決まったのである。だが私たちに残されていた時間は十日。あの雄大な世界観を表現するにはあまりにも少なすぎる時間であった。

でもあきらめなかった。台本作り、歌の練習、セリフ覚え、衣装準備など、やることは山積みであった。毎日朝七時に学校にきて、夜七時に帰るといいう日々が続いた。こうして劇は少しずつではあるが着実に完成していったのである。そして迎えた文化祭当日、最初こそ見にくる人は少なかったものの、徐々に数が増えて行き、最後には立ち見まで出るような盛況ぶりを見せたのである。さらには文化祭のグランプリに選出されて、ライオンキングは大成をおさめたのである。

この文化祭は三年間の中で一番充実した文化祭であった。私はこのメンバーでライオンキングをやれて本当に良かったと思う。私は今年でこの学校を卒業するが、この先この思い出を忘れることはないだろう。最後にこの劇に協力してくれた家族、先生方、保護者の方々にお礼を言いたい。ありがとうございました。

高等部

高等部グラウンド 人口芝への改造

事務部総務課長 宇多村 寛太郎
目に飛び込んでくる鮮やかな緑と白線を引いたトラック！

高等部のグラウンド・約四三〇㎡が、人口芝とウレタン走路へと衣替えをしました。

夏休みを利用しての工事は最終工程で連日の雷雨により一寸足踏みしましたが二学期開始の九月五日に完了検査・使用開始の運びとなりました。

1. 第一段階 基礎工事 地盤整備

備・バラスト敷設・透水性アスファルトの敷設

2. 第二段階 大型コンテナで搬入された一八本の長いロール

状の芝パイルシートをグラウンドの形状に合わせて一枚物に縫合。

常設のライン用に色違いのパイルシートがカット・縫合を経て設置。

「東京ドーム」「横浜スタジアム」と同じカナダ・フィールドターフ社の芝です。

3. 第三段階 五〇mmのロングパイルに衝撃吸収材としての珪砂とゴムチップが三層構造にて充填。



・全天候型の五〇m直線トラック部は、一三mm厚の透水性ゴムチップウレタン舗装仕上げです。

・人口芝グラウンドの効果
なんとと言っても風の日の土埃と近隣・通行人からの苦情、雨後のぬかるみ、泥汚れがなくなりました。当初、噂を聞きつけたのか、正門からグラウンドを覗きにこられる住人が目につきました。

使い勝手の評価はすこぶる良い模様です。但し使用に際しての配慮・留意点はかなりあります。この素晴らしいグラウンドで高校生パワーが発揮されるのが楽しみです。

高等部

旧教職員ご遺族から
多額の寄付金

昨年四月にご逝去されました故金巻サイ子先生のご遺族より、五百万円の寄付金が学園に寄せられました。相続人を代表して澤味孝次様が先日学園にわざわざお越しになり、「故人が生前学園の発展のために寄付してほしいと話していたので、役立ててください。」と寄付金が理事長に贈呈されました。

これを受けて木内秀俊理事長から、「賜りました寄付金は、今後よく検討のうえ、先生ご遺族の皆様のお気持ちに沿えるよう、大切に使用させていただきます。」とお礼が述べられました。

故金巻サイ子先生は、昭和二十三年から四十一年間、中等・高等学校で家庭科教諭を務められ、この間、家政科主任、図書館長なども歴任されました。当時は女子校で、普通科の他に設置された家政科には多くの生徒が在籍しており、先生は科の中心となつて今日の学校発展の一翼を担われました。

ここに改めてご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族のみなさまに厚く御礼申し上げます。

深谷高校

第二十九回持久走大会

全校生徒の体力向上!

十一月二十一日(金)、全校生徒を対象とした持久走大会が無風で快晴という絶好のコンディションの下、熊谷荒川公園運動場ジョギングコース及び熊谷・荒川河川敷堤防上で行われました。男子生徒は十一キロ、女子生徒は八キロを制限時間内に走る競技です。

男子の部では一位から四位までが大会新記録という好成绩、いずれもサッカー部員でしたが、一位内の九名までサッカー部員が占めました。

女子の部では一位から三位までがバスケットボール部員、一〇位



女子生徒のスタート



男子生徒のスタート

内の五名がバスケットボール部員でした。男子上位入賞者二〇名、女子上位入賞者三〇名全員が部活動をを行っている生徒で日ごろの鍛錬の賜物と思われれます。部活を引退した三年生が男子二名、女子三名が入賞したのは流石!

今回の大きな成果は、制限時間内に完走した生徒が殆どで「最後まで走り抜く強い意志を養うと共に体力の保持増進を図る」という大会の目的が達成されたことです。

大会新記録は皆の応援が支え

二年E組 大熊泰輔



(サッカー部)
僕は今年の持久走大会でやつと一位をとることができました。でも、それよりも、それよりも嬉しかったです。大会新記録を出せたのは、きつとすれ違った人たちに応援されたのが支えになったからだだと思います。皆も何事にもあきらめないで頑張ってください。

今後につなげたい最後までのおねばり

二年A組 矢萩愛菜



(バスケットボール部)
今年の持久走大会では昨年より上位を目指して走りました。走っている時はとても辛くて苦しかったけれど、すれ違う人達の声援もあり、最後まで走ることができました。けれど大会記録が出せなかったのが悔しかったです。しかし最後まで諦めず走ることができたのは、今後何かにつながれば良いと思います。

本校は一昨年夏に校舎の耐震で補強工事を行いました。が、教職員及び生徒の防火防災意識の高揚を図ることが大切と総合訓練(通報・避難・消火)を十一月二十日の午後実施致しました。日常生活においても災害を防止する心がけ、万一来に備え、迅速且つ安全に避難して、人命の安全を図ることを目的としています。

当日は教職員が事前に定められた役割ごとに八班に分かれて対応、生徒に対しては緊急放送後の安全避難を指導しました。外国の高層ビル火災の際、階段での事故も多かった事例や二次災害などの事例も紹介しました。



1年生 HR 委員による消火訓練

深谷高校

防火避難総合訓練

本校は一昨年夏に校舎の耐震で補強工事を行いました。が、教職員及び生徒の防火防災意識の高揚を図ることが大切と総合訓練(通報・避難・消火)を十一月二十日の午後実施致しました。日常生活に

おいても災害を防止する心がけ、万一来に備え、迅速且つ安全に避難して、人命の安全を図ることを目的としています。

幼稚園

韓国からのお客様をお迎えして

昨年十二月十五日元韓国大使館参事官をなされ、現在韓国文部省トップで教育大学院教授のイクァンヒョン先生と、韓国で三つの幼稚園理事長のファンソンハ先生など五名が視察にお見えになりました。

お迎えするにあたり、子供たちは、事前に韓国旗(太極旗)の事を知ったり、挨拶の言葉を覚えたりしました。当日は、子供たちが韓国旗を手に花やレイで「アニョンハセヨ・こんにちは」と歓迎し、手話や遊戯、合奏をいたしました。

韓国は非常に教育熱心な国で、イ先生、ファン先生方もとてもご熱心にご覧くださっておりました。そして、子供たちの演技に大変感心され、又先生方の保育技術の高さに驚かれ「韓国でも、もっと勉強しなければならぬ、成徳の子供たちは素晴らしい、感激しました。」とおっしゃっていました。子供たちは喜んでお帰りになられました。



第二幼稚園

幼小連携おはなし会

さる十月二十八日、さいたま市立下落合小学校六年生と年長組の交流会を本園で行いました。期待と不安を抱えての当日、六年生が姿を見せると、その体の大きさと丁寧でしつかりとした言葉遣いに子ども達は圧倒されていました。しかし、グループごとに分かれてのおはなし会が始まると、次々出てくるペープサートの仕掛けや楽しい話に、目を輝かせ夢中になっていました。六年生の優しい声掛けや温かい笑顔に安心し、徐々に緊張もほぐれ、いつもの笑顔が戻ってきました。その後のゲーム

では六年生の上手なリードで、みんなで仲良く遊ぶことが出来ました。最後の園庭での自由遊びの頃には、「見て！見て！」と園児が六年生の手を引いて遊び、別れの際には見えなくなるまで手を振っていました。約一時間の交流会でしたが、来年度小学校に入学予定の子ども達は小学校に憧れと大きな期待を持つことが出来、とても充実した時間を過ごすことができました。これからも小学校との連携を深め、交流の機会をつくっていききたいと思います。



幼稚園

クリスマス会・・・十二月十六日

待ちに待ったクリスマス会が一日早くやってきました。保護者が企画し先生が扮装する仮装は、運動会に行う予定でしたが、残念なことに雨となりクリスマス会に合わせ披露されました。先生方がTVなどでおなじみの工夫をこらした衣装を着て登場し子供たちはいつもと違う先生に釘づけでした。

特に「千と千尋」で園長先生の「坊」や「千尋」に扮した大武先生に大声援を送っていました。お母さんコーラスが会を盛り上げ、そして先生方の劇「赤頭巾とおおかみ」に拍手喝采、気分は絶対好調になったところでサンタク



ロースにクリスマスブーツをもらった子供たちは、満面の笑みを浮かべとても満足そうでした。

第二幼稚園

異世代交流

九月十日、与野ハウスの高齢者の方や在園児の祖父母をお招きし、「異世代交流」が行われました。遠方からかけつけてくださった祖父母もいらつしやる中、かるたやけん玉、こま回しや折紙など、子どもと高齢者が楽しく関わりあっている姿が見受けられました。

ある高齢者の方は「子どもから元気をもらいました。来年もぜひ参加したいです。」と話してくださいました。

子どもとの交流を通じ、幼稚園に対する理解を深めていただきました。今後とも、地域に開かれた幼稚園を目指してまいります。



クラブ活動の成果

昨シーズンも輝かしい抜群の好成績 高校女子バスケット



ドリブルでゴール下に切り込む東京成徳大高の篠原（後の4番は間宮）
（写真提供 読売新聞社）

共に178cmの長身を誇る、東京成徳大高の主将間宮（3年）と篠原（2年）のツインタワーが、存在感を際立たせた。

間宮がオフエンスリバウンドを拾って得点を重ねれば、篠原はバックボード直下からの難しいフックシュートを、長い腕を生かして決めた。高さと速さを併せ持つ2人のセンターがゴール下の制空権を握り、聖カタリナ女に譲らなかった。

盤石のツインタワー

最大の強みは、互いにカバーし合える点だ。間宮がマークがきつくなっても、もう一人が動ける。今日はメグ（篠原）に助けられた部分が多かったと語る通り、この試合は間宮27得点、篠原24得点と、2人だけで全得点の6割を挙げた。

この2人とフォワードの山本（2年）は、11月のアジア選手権で、6連覇中の中国を破って初優勝を遂げたU-18（18歳以下）日本代表のメンバー。将来性豊かな逸材が集うチームだ。それでも、桜花学園には昨年の決勝で敗れ、今夏の総体決勝でも18点差から逆転されて涙をのんでいる。「しつこい守りと速い攻めで、夏の雪辱を果たしたい」と下坂コーチ。二枚看板を中心に、リベンジの舞台に臨む。（田中潤）

チームの健闘を称賛した読売新聞12月28日付朝刊記事（同社提供）

高校女子バスケットボール部は、豪が競いあう中、夏の優勝、秋の国体で優勝、年末の高校選抜は準優勝。

以上のような見事な成績を収めました。

監督・コーチの卓越した指導、それに応えた選手たちのたゆまぬ努力、サポートした生徒・後援会の熱意の成果です。

全国大会で金賞を目指すバトントワリング部



深谷高等学校

バトントワリング部は、主にバトンとチアダンスを練習しています。体育祭や野球応援ではチアリーダーとして場を盛り上げ、地域のイベントにも積極的に参加しています。

バトンでは朝、昼休み、そして放課後と毎日厳しい練習を積み重ね、8年連続で関東大会に出場してきました。今年度は「JUSTICE」という演技テーマのもと、ジャズダンスの技術の習得や表現力の向上に力を入れました。そして埼玉県大会及び関東大会で金賞を受賞し、第36回マーチング・バトントワリング全国大会への出場権を獲得することができました。全国大会での金賞を目指し、さらに完成度の高い作品にするため日々努力しています。

第44回定期演奏会に向けての取り組み



高等部 吹奏楽部顧問 内海良三

私たち吹奏楽部は個人技術の向上とチームの和を目標に掲げ、ここ数年35名前後のメンバーで活動しています。入学式や卒業式、文化祭等の学校行事をはじめ、吹奏楽コンクールや野球応援、また時には地域のイベントなどにも参加し、クラシックからジャズまで、幅広いジャンルの音楽を演奏して楽しんでいます。

校名に見る「成徳」の文字は「徳を成す人づくり」という意味で、本校の建学の精神でもあります。吹奏楽部ではこの二文字が示す指針に沿うべく、互いが部内において研鑽を積み、社会に通用する人となり得るよう心がけて部活動に臨んでいます。その意味で多少厳しい部であるとの評も聞こえてきますが、継続している部員の成長を見るに方針の転換は考えられません。来たる3月には3年生部員を送るための定期演奏会を予定しています。入学時に18名だった学年も最後の定期演奏会では10名の出演となりますが、3年間頑張ってきた姿を見せてくれることと思います。現在は1、2年生部員中心の活動ですが、先輩への感謝の気持ちを込め、定期演奏会に向けての練習に励んでいます。

吹奏楽部 第44回定期演奏会 平成21年3月11日（水）午後4時開演 於「北とびあ」さくらホール

新刊コーナー

本学園の教員が原則として平成20年に上梓した著書をご紹介します。(順不同)



「カウンセリング心理学事典」

國分康孝 監修

誠信堂書房 5,040円(税込) 平成20年11月25日刊行

この度、日本でははじめてのカウンセリング心理学辞典が、めでたく刊行の運びとなりました、本事典刊行の狙いは

1. カウンセリング心理学と臨床心理学の異同を提示したい。
2. カウンセリングとカウンセリング心理学の識別を提示したい。

「カウンセリング心理学ここに在り」との信念と矜持に基づく力作であり、まさに國分副学長の大学教授生活40年の集大成といえる作品です。今後の日本の心理学会をリードする必読の事典となるでしょう。

本事典の編集・執筆には國分教授のほか、市村教授、海保教授、中山教授、石崎教授など、本学の多数の研究者が参加しております。

応用心理学部発足の年に、このような素晴らしい事典が完成したことは、本学にとっても大変意義深いことです。

「新生徒指導ガイド」

～開発・予防・解決的な教育モデルによる発達援助～

八並光俊 著 國分康孝 編

図書文化社 2,520円(税込) 平成20年11月1日刊行

「治療志向のスクールカウンセリングから教育志向のスクールカウンセリングへ」を提唱している。



「育児不安の国際比較」

深谷昌志 編著 周建中 分担執筆

学文社 2,100円(税込) 平成20年5月10日刊行

子育てに不安を抱える母親が増加している。本書は育児不安の背景を社会的に分析し、「不慣れ+孤独+疲労の蓄積」が育児不安の底流に見られることを明らかにした。それとソウルや北京などとの国際比較を通じて、日本の育児の持つ特殊性を検証した。本研究は文部科学省の科学研究費補助金「基盤研究B」を受託して行われた。周教授は「一人っ子政策下の育児」を分担執筆、中

国における一人っ子人口の現状と今後展望、幼児教育システムと運営形態、家庭の育児形態、一人っ子教育上の問題点、今後方向について執筆。

「父親-100の生き方」

深谷昌志 著

中公新書 777円(税込) 平成20年6月25日刊行

本書は子どもの眼を通して父親の生き方を探ろうとしたもので、資料として100冊の自伝を活用した。昔の父親に権威に充ちた力強い存在を理想し、それとの対比で、父親の権威失墜が語られやすい。しかし、昔にもひ弱な父親や無責任な父親が少なくない。それだけに、無理に父親らしさを演じるより、自分らしく生きることが大事だと思った。



「知識ゼロからのゴルフの心理学」

市村操一 著

幻冬社 1,365円(税込) 平成20年2月20日刊行

ゴルフの初心者のための精神集中法、不安の克服、目標設定などの話題を取り扱っている。

でも、なぜかプロも読んでるらしい。

「ジュニアスポーツの心理学」

フランク・スモール、ロナルド・スミス、市村操一、杉山佳生 著

大修館書店 2,415円(税込) 平成20年1月12日刊行

子どもの発達にあったスポーツの指導法や、スポーツが子どもの人格発達に及ぼす影響など、最新の児童期のスポーツ心理学の本を翻訳したもの。

「産業カウンセリング辞典」

産業カウンセリング学会 監修

松原達哉、木村周、桐村晋次 編 木幡日出男 分担執筆

金子書房 6,300円(税込) 平成20年11月20日刊行

働く人が抱える問題を明らかにし、よりよい生き方・働き方を支援する心理専門職者がさらに求められている現在、「働くこと」に関わるカウンセリング領域を構成せる諸分野の基本的用語を取り上げて、わかりやすく解説している。

「スクールカウンセリングの基礎と経験」

馬場謙一、松本京介編 堀江姿帆 分担執筆

日本評論社 2,625円(税込) 平成20年5月10日刊行

学校における生きた臨床とは何か、基礎知識だけでなく、事例を豊富に掲載し、現場での成功例や困難例をひもどく。力動的心理療法家の執筆者達が、スクールカウンセリングの本質に迫る。

「よい子ども.com」開設 (<http://www.41kodomo.com/>)

子ども学部では、平成20年7月から、ネット上の教育相談室「よい子ども.com」のサイトを立ち上げました。本学大学院の心理・教育相談センターでは平成13年から17年までの5年間文部科学省オープンリサーチ補助事業の助成を受け、ネット上の教育相談を開設してきましたが、事業の終了をもってサイトが閉じられました。今回同サイトの再活用を考え、かつてのQ&Aの中から厳選し、新規項目も追加して子どもを取り巻く多様な問題を取り上げた4000項目を収録しています。回答者には子ども学部の教員を中心に、学外の子ども問題の専門家の協力を求め、現在執筆者は38名です。ヤフーからの検索も可能ですので、アクセスし閲覧いただきたくお願い致します。

人 事

平成20年9月1日付

大学院心理学研究科長 市村 操一

(兼大学応用心理学部長兼臨床心理学科長)

平成20年11月1日付

法人本部企画調査室長 國田 廣光

(前法人本部企画調査室次長)

入試日程などはホームページで詳細を



新しく人工芝へと生まれ変わった高等部グラウンド

学校法人 **東京成徳学園** <http://www.tokyoseitoku.ac.jp>

東京成徳大学大学院	http://www.tsu.ac.jp/gra (pc) office-gra@tsu.ac.jp (e-mail)	電話 03-3927-4116
東京成徳大学	http://www.tsu.ac.jp (pc) http://www.tsu-mobile.com (携帯サイト)	
人文学部 応用心理学部 子ども学部	八千代キャンパス入試・広報センター 十条台キャンパス入学課	電話 047-488-1000 (直通) 電話 03-3908-4566 (直通)
東京成徳短期大学	http://www.tsc.ac.jp 十条台キャンパス入学課	電話 03-3908-4566 (直通)
東京成徳大学中学・高等学校	http://www.tokyoseitoku.jp/hs	
中高一貫部		電話 03-3911-2786
高等部		電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷高等学校	http://www.tsfh.jp	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind	電話 03-3911-6337
東京成徳短期大学附属第二幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/y-kind	電話 048-854-2151
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383
学外施設戸隠グリーン (4月～9月まで開館)		電話 026-254-2662

学校法人 東京成徳学園 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9 TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
法人本部企画調査室 東京成徳広報 第25号 平成21年1月発行